

目 的

那珂川のアユ資源を持続的に活用するためには、漁獲の動向を把握した上で適正な漁場運営を行う必要がある。そこで今年度も引き続き、那珂川におけるアユの漁獲状況に関する情報を収集した。

材料および方法

**友釣りによる漁獲状況** 栃木県那珂川漁業協同組合連合会会員 4 漁協に対し、調査票 150 枚を前年度の賦課金納入者数の割合に応じて配布した。各漁協がそれぞれ選定した調査員に対し、平成 28 年 6 月 1 日の釣り解禁日から 11 月 10 日までの間、釣行日の釣獲地区（本流 7 地区および 4 支流の計 11 区域；図 1）および釣獲尾数（釣果なしも含む）の記録を依頼した。無記入の調査票は、出漁日数を 0 として扱った。なお、回収率は 76.0%であった。

**投網による漁獲状況** 釣りと同様の方法で調査票 50 枚を配布し、漁獲重量の調査を行った（投網は 7 月 10 日から区間毎に順次解禁される）。なお、回答率は 78.0%であった。



図 1 那珂川における釣獲地区の区分

結果および考察

**釣れ具合・獲れ具合** 釣れ具合は 10.3 尾/人/日で、前年と同様、平年（ともに 10.0 尾/人/日）並みだった（図 2）。解禁日は 13.9 尾/人/日と平年（9.7 尾/人/日）を上回った（図 3）。月別の推移を見ると、8 月を除いて期間を通じて平年を上回っており、特に 10 月の釣れ

具合が高かった（図 4）。地区別に見ると、解禁日には本流の釣れ具合が前年に比べて高かった（図 3）。漁期を通して見ると、前年に比べて地区間での差が小さかった（図 5）。

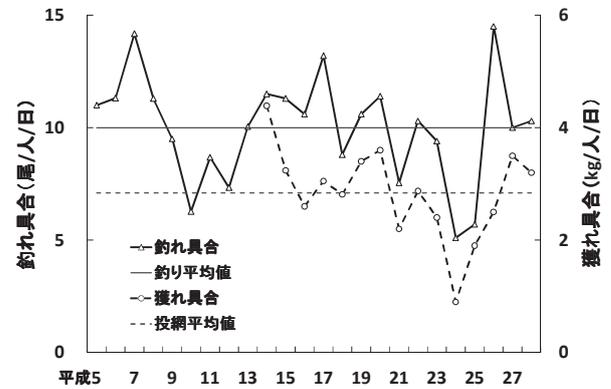


図 2 釣れ具合および獲れ具合の経年変化

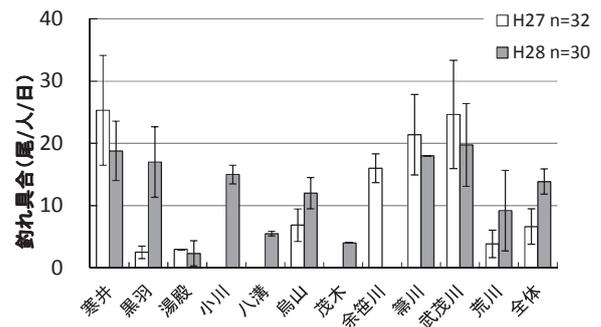


図 3 地区別の釣れ具合（解禁日）  
エラーバーは標準偏差を示す。

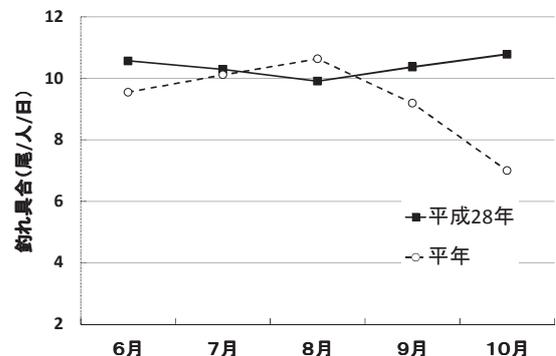


図 4 釣れ具合の月別の推移

投網による獲れ具合は 3.2 kg/人/日で、前年（3.5 kg/人/日）とほぼ同様、平年（2.8 kg/人/日）の約 1.1 倍だった（図 2）。

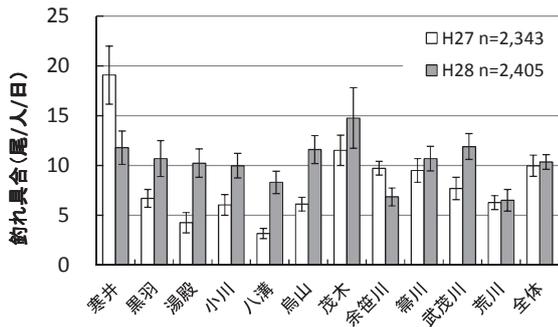


図5 地区別の釣れ具合（漁期全体）  
エラーバーは標準偏差を示す。

**出漁日数** 釣りの出漁日数は 19.5 日/人で、前年（18.6 日/人）の 104.8%，平年（21.0 日/人）の 92.9% となった（図 6）。

一方、投網の出漁日数は 11.9 日/人で、前年（12.0 日/人）とほぼ同様、平年（11.1 日/人）の 107.2% で、昨年に続いて獲れ具合が良かったことが出漁日数の増加に繋がったと考えられる（図 6）。

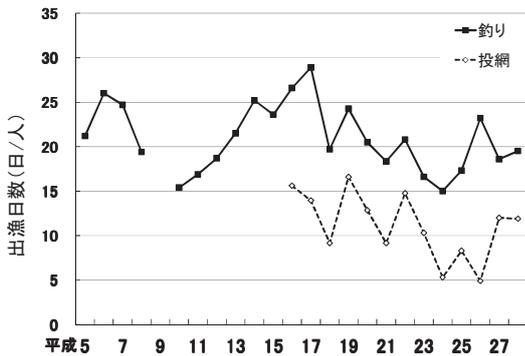


図6 釣りおよび投網の出漁日数の推移

**釣獲尾数・漁獲量** 釣りによる漁獲量は 142.5 t で前年（126.9 t）の 1.1 倍に増加した（図 7）。地区別では、黒羽が最も多く、昨年を上回った地区が多かった（図 8）。

投網による漁獲量は 66.6 t で、前年（77.3 t）の 86% だった（図 7）。地区別では、昨年度と同様に烏山、八溝での漁獲量が多かった（図 9）。

**出漁者数** 釣りの出漁者数は 20.1 万人で前年（19.7 万人）から微増したが、近年では横ばいの傾向が続いている（図 10）。

投網の出漁者数は 2.1 万人で、前年（2.2 万人）とほぼ同様だった（図 10）。

（指導環境室）

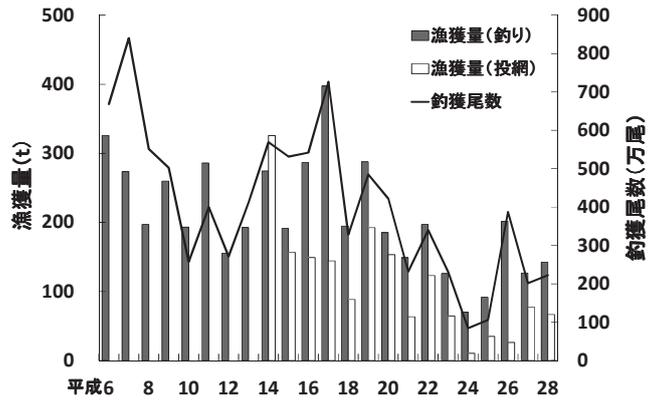


図7 釣りおよび投網による漁獲量および釣獲尾数の経年変化

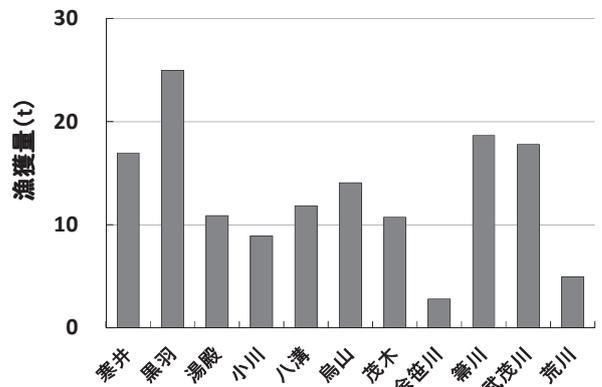


図8 地区別の漁獲量（釣り）

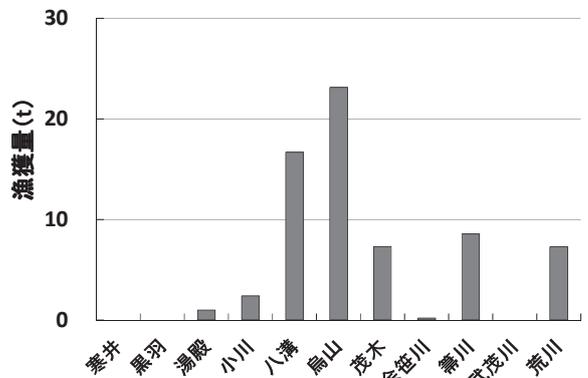


図9 地区別の漁獲量（投網）  
※寒井・武茂川地区は釣り専用区

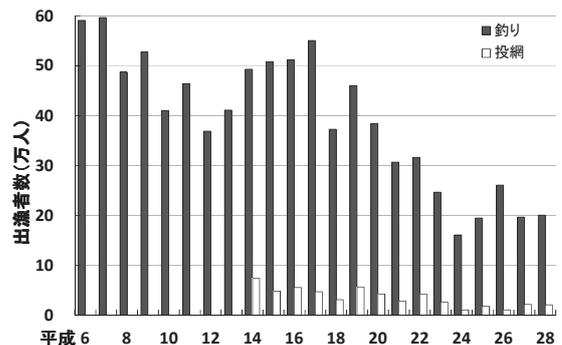


図10 釣りおよび投網出漁者数の推移